

1

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

◆学習のねらい

自分の好き嫌いにとらわれず、誰とでも仲良く接することができる態度を育てる。

◆評価

自分と友達の考え方には違いがあることが分かり、誰とでも仲良くすることの大切さに気付くことができたか。

◆教育課程における位置付け

特別の教科 道徳（公正、公平、社会正義）

◆主な使用教材

・「みんなとなかよく—あなたが うさぎさんだったら—」（文部科学省『わたしたちの道徳』小学校1・2年）

展開例

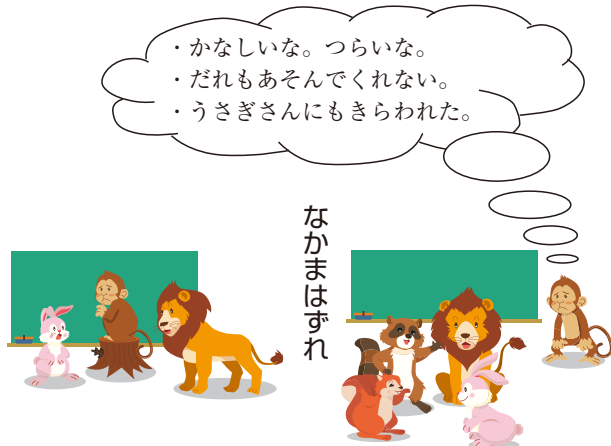
	学習活動（◇教師の発問例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 友達と仲良くできなかった生活経験を想起する。 ◇ 友達と仲良くできなかったことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。	○ 児童・生徒の実態に応じて、絵カード等を活用し、気持ちを表現させる。
展開 30分	2 教材「みんなとなかよく—あなたが うさぎさんだったら—」を読み、話し合う。 ◇ 仲間外れにされているおさるさんは、どんな気持ちでしょう。 【中心発問】ライオンさんに、「どうして、みんなといっしょにおさるさんをなかまはずれにしないの。」と言われたうさぎさんは、この後、どうしたでしょう。	○ 教材を範読する際は、児童・生徒の実態に応じ、場面絵を活用した紙芝居等を活用する。 ○ おさるさん、ライオンさん、うさぎさんになって役割演技を行う。
終末 10分	3 今日の学習を振り返り、して良いこととしてはいけなことを考える。 ◇ 「みんなとなかよく」の四つの絵を見て、して良いことと、してはいけなことはどれでしょうか。	○ 『わたしたちの道徳』166、167ページの絵を見て、判断した理由を発表させる。

板書例

○してよいことと、してはいけないことはどれでしょうか。

- ・おさるさんよりゆうをはなす。
- ・ライオンさんのことを気にせず、おさるさんとあそぶ。
- ・ライオンさんに、なかまはずれはいけないとはなす。
- ・どうしたら、みんななかよくあそべるかはなしあう。

○うさぎさんは、このあと、どうしたでしょう。



みんなとなかよく

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成
互いの個性の理解
望ましい人間関係の構築
規範意識の醸成
教員研修プログラム
いじめ問題への対応事例

あなたが うさぎさんだったら、どうしますか。



文部科学省『わたしたちの道徳』小学校一・二年

【資料等】

←中心発問で使用するワークシート

↓終末で使用する『わたしたちの道徳』（166、167 ページ）

★ うさぎさんは、この後、どうしたでしょう。考えたことを書きましよう。

〔特別支援学校 道徳科学習ワークシート〕

□年 □組 □番 □名前

みんなと なかよく

楽しく遊ぶことが、友達と仲良くする大切なことだ。

なかにあそびたい人が、あそびたいことを、あそびたい。

みんなで食べると、仲良く食べられる。

みんなが、仲良く食べたいものを、みんなが食べたい。

みんなで遊んで、仲良く遊べる。

みんなが、遊んでみたいものを、みんなが遊んでみたい。

みんなで食べると、仲良く食べられる。

みんなが、仲良く食べたいものを、みんなが食べたい。

互いの個性の理解

<p>◆学習のねらい 友達や教師が見付けてくれた自分の良いところを知ること、自分の良いところを積極的に知ろうとする態度を育てる。</p> <p>◆評価 自分や友達の良いところを見付け、認めることができたか。</p>	<p>◆教育課程における位置付け 特別活動 ※生活科における「自分を振り返る活動」との関連を図ることができる。</p> <p>◆主な使用教材 ・東京都道徳教育教材集『心あかるく』〈小学校1・2年生版〉 ・「じぶんのよいところカード」 ・「ともだちのよいところカード」</p>
---	---

展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	<p>1 本時の学習を知る。</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffffcc;">じぶんのよいところをしろ。</p>	<p>○ 教師が、自分の良いところとはどういうものかについて、分かりやすく例を挙げて説明する。</p> <p>○ 教師が自分の紹介をする。 (例：好きなことは～です。～ができるようになりました。など)</p>
展開 25分	<p>2 自分ができるようになったことや自分を紹介することを探して、「じぶんのよいところカード」に記入する。</p> <p>3 4人グループになり、自分以外の3人の良いところを「ともだちのよいところカード」に書く。 ・ そうじのときに、ほうきをゆずってくれた。 ・ 走るのが速い。 ・ たくさん本を読んでいる。 (1) 「ともだちのよいところカード」を書いたら、それぞれ友達に渡す。 (2) 友達から渡されたカードを読む。</p> <p>4 友達からもらった「よいところカード」読んで、どう感じたかを発表する。</p>	<p>○ 自分で見付けられない児童や、迷っている児童には声を掛け、その児童の頑張っているところを伝え、自信をもって記入できるようにする。</p> <p>○ 友達のことが分からない児童には声を掛け、行事で頑張っていた姿や児童が気付かなかった姿を例に挙げる。</p> <p>○ 児童は友達の頑張りに気付けない場合もあるので、教師も具体的事実に基づく全員分の良いところや頑張っているところを探しておき、探せない児童に伝えながら、良いところに気付かせる。</p> <p>○ 感想の中から、友達に自分の良いところを見付けてもらってうれしかったことなどを引き出す。</p>
まとめ 10分	<p>5 本時の振り返りを行い、自分には、自分が知らなかった良いところがあることに気付く。 ・ 友達が、自分の良いところを見付けてくれてうれしかった。</p>	<p>○ 東京都道徳教育教材集『心あかるく』の114ページ「自分のことで」に、頑張ったことやうれしかったこと、できるようになったことなどを記入させる。</p>